

⑦田園調布から田園調布古墳群を訪れる資料 2019.6.26 島田

田園調布駅

田園調布駅は、1923年目黒蒲田電鉄の目黒駅—丸子駅（現在の沼部駅）間開通と同時に開業されました。当時の駅名は調布駅で現在の駅名に改称されたのは、1926年です。



1990年田園調布駅は地下化に伴い取り壊されたが、マンサード屋根風の姿を惜んだ住民の活動があって10年後に復元され街のシンボルとなった。この年、関東駅百選に選定された。マンサード屋根とは、腰折屋根ともいい屋根の勾配が上が緩く、下が急な2段になっている屋根を言う。

田園調布高級住宅街

1980年、星セント・ルイスのギャグのネタ「田園調布に家が建つ」で一躍有名になった田園調布の高級住宅街。何故、現在まで日本有数の高級住宅街が保たれているの？それは、土地の購入時点で交わされた「土地譲渡契約書」と自治会としての設立された「社団法人田園調布会」が制定した「田園憲章」と「環境保全及び景観維持に係わる規定」、「外構、植栽計画等に関する事項」「届出に関する事項」が守られてきた特殊な事例ではないかと推察する。

「田園憲章」では、理念が明確にされた。

「土地譲渡契約書」では、建築に対する条件が制約された。

「環境保全及び景観維持に係わる規定」では建築、外観・植栽、環境保全に対して厳しく規制された。

しかし、中には守らない人もいようで規定に合わない住宅も散見される。

これは建築協定なので遵守する義務があります。建築協定とは、その地域の住人が、その地域の環境を守るために作ったものです。都道府県や市町村の条例や建築基準法、民法等の条例法律よりも優先するべき内容です。罰則は、非常に単純でその地域に居住することができなくなります、

現在、住んでいる有名人は、石原慎太郎、五木ひろし、牛尾治朗、曾野綾子、中井貴一、長嶋茂雄、鳩山由紀夫など15人。かつての住人・故人は渋沢秀雄、長嶋茂雄、石川達三、石坂浩二、石坂洋次郎、高峰三枝子、中内功、有馬稲子、佐田啓二、横井英樹など29人

合計44人も有名人が何故田園調布に住むようになったか、インターネットで調べましたが不明でした。



高級住宅街



三浦朱門・曾野綾子夫婦邸



長嶋茂雄邸

宝来公園

自然林を生かし、武蔵野の面影をしのばせる閑静なこの公園で、前身は1926年、武蔵野の旧景を保存し永く後世に残すために、財団法人田園調布会が街の一角の潮見台の地を広場としたことがはじまります。1934年田園調布会から東京市に寄付され、造成整備の後、昭和19年4月「宝来公園」として開園しました。



園内にはウメ、サクラ、ツバキ、サザンカなど約70種1,500本の花や樹木があります。湧水のある池にはカモや亀などがおり、5月には約300株のキショウブが咲きます。池の水は、循環させている水と湧水の両方です。

公園の名前はもともと宝来山古墳があった所だったことに由来しています。

荏原台古墳群



多摩川下流左岸には、世田谷区野毛周辺から大田区田園調布に広がる古墳群で50基あまりの古墳があしました。この古墳群は、世田谷区側を「野毛古墳群」、大田区側を「田園調布古墳群」と呼び、合せて「荏原台古墳群」と呼ばれています。

何故、この地に多くの古墳が存在するかというと、この一帯は、多摩川という水資源と広大で肥沃な平地があった。弥生時代以来の生産性高い農耕地に強力な首長が存在したと考えられるからである。そして古墳時代にその首長と一族の墓地として利用してきたからであります。

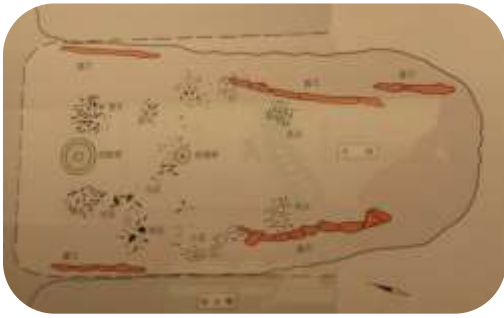
特徴として下記の点が挙げられます。

- ① 古墳時代全般にわたり古墳が作られ続けました
- ② 古墳形成の各段階に分布地域に偏りがあります。
- ③ 地域により墳形が異なる傾向があります。
- ④ 前方後円墳及び横穴式石室を持つ後期古墳も多い事であります。

去年は、荏原台古墳群の中の「野毛古墳群」と「古墳について」学びました。今年は、田園調布古墳群の「宝来山古墳・多摩川台公園・亀甲山古墳」と古墳の埋蔵施設の中の「棺」について学びます。

宝莱山古墳

出土品から4世紀前半に構築された関東地方でも最古の古墳の1つで前方後円墳です。1934年に後円部の3分の2が削平されたが、前方部を含めた残存部は今日も良好な形状を保っている。

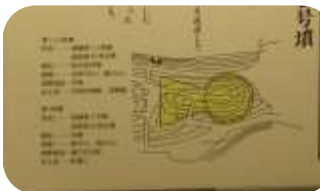


後円部は3段、前方部は2段の築成であったことが推定されている。

後円部が削平された時、発見された木棺の内部から国産の四獣形鏡、硬玉製勾玉、ガラス製小玉、直刀などが出土された。

多摩川台古墳群

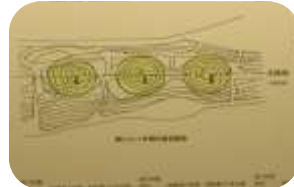
北側の「宝莱古墳」と南側の「亀甲山古墳」の2つの大型前方後円墳の間に築造された8基からなる台地上に約600mにわたって面積66,661 m²の古墳時代後期の古墳群である。



i・2号古墳



3・4号古墳



5・6・7号古墳



9号古墳

2号墳は円墳で、1号古墳はこの古墳を前部に利用した前方後円墳。3号墳、4号墳、5号墳、6号墳、7号墳、8号墳は、直径15m～19m内外の小規模な古墳である。これらの古墳は、6世紀前半から7世紀中頃に築造された。

古墳の一部の石室内からは、直刀、武具、耳飾り、須恵器や土師器（はじき）などが発見されている。

亀甲山古墳（かめのこやまこふん）

54基ある荏原台古墳群の中でも代表的な有力者の古墳であり、東京を代表する前方後円墳の1つである。後円部前方部が削平されているが、旧状を良くとどめている。



規模は、墳丘長102.75m、後円部経66m、前方部幅49.5m、後円部高11.75m、前方部高7.63を測り墳丘の途中に1段の尻端部を設けた2段築成であった推定される。定かではないが、4世紀後半に築造された古墳と考えられる。この推定年代から

亀甲山古墳は、宝莱山古墳に次いで築造された多摩川流域の首長の墓と想定される。

「亀甲山」の古墳名は、横から見た墳形が亀に似ていることに由来する。

調布浄水場跡

東京都の浄水場として多摩川の水を取水して砂ろ過をしたうえ、ろ過水を大田区の一部に送水する役割を担っていたが、大河内ダム完成後はその役割を終えた。

東京都の浄水場であったことを残すため、多摩川台公園の中へろ過池・沈殿池をなるべくそのままの形で水生植物園・植物園に転用し、地下貯水場は水生植物園への貯水に利用することにしたのである。

水生植物園は、池に土と水で沼に似た環境が作られヒメスイセン、アサザなどの水生植物と花菖蒲、アヤメ、半夏生などが植えられた。シーズンになると子供に人気のザリガニもいてシーズンになると親子ずれで賑わっている。

四季の野草公園は、ろ過池のレンガ囲いを利用して造られた広い花壇が主体である。花壇には、四季に応じたさまざまな草花が植えられ、詩情溢れる光景が広がっている。

あじさい園には、西洋アジサイ、ヤマアジサイ、ガクアジサイなど7品種3000株の紫陽花が咲き誇り、人々の目を楽しませている。アジサイは、宝萊古墳から多摩川台公園に入った所から道の両側にも咲き、アジサイロードを作っている。



水生植物園



四季の野草公園



あじさい園

浅間神社

創建は鎌倉時代の文治年間（1185年～1190年）と伝えられる。

源頼朝が豊島郡滝野川松崎に出陣した時、夫の身を案じた北条政子が後を追って多摩川まで来た。



本殿

その時わらじの傷が痛んだため、この地で傷の治療をすることにして逗留した。その際に亀甲山へ登ってみると富士山が鮮やかに見えた。富士吉田には、政子の守り本尊である浅間神社があるので、政子はその浅間神社に手を合わせ、夫の武運長久を祈り、身につけていた正観世音像をこの丘に建てたという。それ以来、村人たちはこの像を「富士浅間大菩薩」と呼び祀ったのが、この神社の起こりとされている。

本殿の建築様式は浅間造であり、これは東京都内では唯一。本殿は浅間神社古墳の上に建てられており、間に東急東横線を挟んで多摩川台公園の舌状台地に連なっている。社殿までの参道には、「白糸の滝」「小御岳石尊」「食行身祿の石碑」があり、多数の溶岩が置かれ、富士塚のように富士登山を模している。

浅間造とは、寄棟造りの上に、流れ造りの社殿をのせたものをいう。

食行身祿（じきぎょうみろく）

食行身祿は、現在の富士山八合目で断食修行をし、浅間信仰の団体・富士講の祖となった人物で、貧しい庶民に教線を広げ「乞食身祿」と呼ばれた。

食行身祿の石碑は、1882年に地元の講社（こうしゃ）が33回目の登山を記念して建てたもので、この石碑の書は勝海舟である。



食行身祿の石碑

田園調布せせらぎ公園



ここにはかつて「多摩川園」という遊園地であった。多くの人々の人気を集め盛況だった時期もあったが、時代が変わりレジャーの多様化と共に集客力を失い 1979 年閉じられた。

その後、多摩川ラケットクラブという高級テニスクラブに生まれ変わったが、バブルの崩壊とともに経営は行き詰まり、2000 年再度閉園された。

その跡地を大田区が取得、公園として整備して開園したのが現在の「田園調布せせらぎ公園」である。

この森には、カシやシイなどの常緑樹とケヤキやエノキ、クヌギ、コナラなどの落葉樹が混在し、武蔵野の雑木林が残されている。

また、崖線沿いには、湧水が湧き、その水が流れ込むたのめ池が 2 箇所、観賞用に造られた池が 3 箇所あり、それらを結ぶ自然のせせらぎがある。公園の名称の由来でもある。

水源は 2 箇所あり、これらを合わせた水量は毎分 2～5 リットル、400 トン/1 日と豊富だったが最近では減少し、公園内にある湧き水を利用した滝は時々しか流れない。

尚、現在工事中の場所は、2020 年度完成され「文化ゾーン」と「スポーツゾーン」として生まれ変わる。それによって地域の多くの皆様が集い、新たな楽しみが生まれることでしょう。